# 教科等研究会（中学校音楽部会）
# 令和元年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

| |
|---|
| イメージを伝え合い、協働する喜びを感じる音楽科授業 |

２　研究経過

| 第１回 | | | 第２回 | | | 第３回 | | | 第４回 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 期日 | 人数 | 場所 | 期日 | 場所 | 授業者 | 期日 | 場所 | 授業者 | 期日 | 場所 | 授業者 |
| 6/3 | 9 | 嘉島中 | 8/9 | 嘉島中 | 研修、協議 | 11/15 | 益城中 | 益城中<br>橋本教諭 | 1/23 | 嘉島中 | 実践報告会、協議 |

３　研究の概要

(1) 研究の内容

「研究テーマについて」

平成２０年度告示の学習指導要領から「共通事項」が示され、音色やリズムなどの音楽を形づくる要素を手がかりに、思い描いたイメージを音楽表現へと具現化する授業を進めていくこととなった。そこで本部会では「共通事項」を手がかりとした授業実践を考える上で重要になる「言語活動」について研究を行うこととした。そして、言語活動を授業実践にどのように取り入れていくのかについて、今年度も研修を深めていくことになった。

第１回の教科等研で言語活動を取り入れていく中で課題となることを話し合い、授業展開を考える上で、複数人で話し合う活動をどのように行うかについて話題が集まり、言語活動の中でも特にペアやグループでの活動に絞り、授業の中でどのように実践していくのかについて研究することにした。

また、学習指導要領解説に述べられている音楽科における言語活動のポイントには、「生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協働する喜びが感じられるような授業を展開する」と示されている。

以上のことから、「協働する喜びを感じる」言語活動を中心として研究を行った。

「研究の流れについて」

研究テーマに沿って進めていくために、実践授業における「協働する喜びを感じる」言語活動の具体的な場面を話し合い、以下の３つを考えた。

① 小アンサンブルなど様々な編成を工夫して、生徒が表現したい方法や形態を選択して取り組むなど、生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動できる場面

② 合唱や合奏等、学級全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合う場面

③ 鑑賞で楽曲の特徴を感じ取る過程で、ねらいに応じて、感じ取ったり気づいたりしたことを音楽の要素と関わらせながら話し合う場面

第１回研修会では、上記の①～③について検討を行い、決定した。

第２回研修会では、来年度「熊本県音楽教育研究大会　上益城大会」に向け、具体的な研究の流れ、研究授業について話合いを行った。

第３回研修会では、③について研究授業を実施した。「伝統的な歌唱の体験を通して、生徒の思いや意図を基に音楽の要素と関わらせながら鑑賞活動を行う。そのために、グループで話し合ったり、全体で発表したりするなどして、感じ取ったことを音楽の要素と関連させながら活動する場を設定する。」などの意見が出された。

第４回研修会では、上記①～③について各学校での実践の報告会を行った。また、次年度の研究大会開催も視野に入れ、研究内容や共通実践の実施、研究等の計画について検討した。

### (2) 成果と課題

「本年度の成果」

○　第１回研修会では、これまでの授業実践を振り返り、できていること、できていないことについて話し合いを行った。多くの意見が出され、研究目標を深めることができた。

○　第２回研修会では、来年度は新学習指導要領全面実施の前年度であり、その年の県大会であることを念頭に置き、新学習指導要領の基づいた指導案の作成について検討を行った。また、第３回の授業研修会に向けて、教材の検討を行い、郡内の伝統文化である清和文楽に着目し、文楽の歌唱（伝統的な歌唱）の体験活動を取り入れた授業を展開することに決めた。具体的な実践事例を基に、教員それぞれの経験から多くの意見が出され、具体的な授業の構想を検討することができた。

○　第３回研修会では、参観授業、研究協議を行った。授業では、歌舞伎の「長唄」と文楽の「義太夫節」の音楽的要素に着目・比較し、類似点と相違点について互いの意見を交換することで、日本の伝統文化に対する理解を深めることがねらいとされた。視聴覚教材を効果的に活用し、視点が明記されたワークシートや掲示物、個人からグループ、全体へと学びを広め協働で課題解決に当たる場の設定など、本時の目標に迫る工夫がなされていた。

○　研究協議では、音楽的要素や美術的要素に着目させるための手立てや、背景にある文化・歴史のかかわりについて理解を深めるための指導方法の工夫について、互いの実践や意見を交換することができた。また、生徒の実態に応じて、ペアやグループ学習など言語活動の充実を図るための手立てや時間の確保、学習を振り返る場の設定等についても、本時の授業における指導や生徒の反応をもとにして協議を深めることができた。

○　第４回研修会では、歌唱、器楽など全領域の実践が報告された。使用したワークシートや指導案を基に、質問や意見が出された。また、経験年数の少ない先生方からは授業実践に向けた質問も多く出され、教員それぞれの経験から具体的な実践例や指導上のポイントが返された。教材、教具だけでなく、発問の仕方や生徒の活動の場づくりなど、研究テーマに沿った議論を深めることができた。

　次年度の研究大会に向けては、新たな指導案の形式も報告され、今後の研究スケジュールについて検討した。

「来年度への課題」

▼　新学習指導要領全面実施に向け、指導案の書き表し方、評価のあり方について研修を行う必要がある。

▼　伝統的な歌唱について、共通した実践を展開し、研究授業の中身について検討を深めていく。特に、教材や教具についての検討を早急に行い、全学校で実践、検証する必要がある。

## ４　実践事例

題材　「日本の伝統芸能に親しみ、声や音楽の特徴を感じ取りながら聴こう」

教材　歌舞伎「勧進帳」、文楽「勧進帳」（教育芸術社）

### (1) 授業の概要

【参観授業】

　本題材は、中学校学習指導要領解説音楽編に示してあるＢ鑑賞（１）の内容から「ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関りを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」「イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」に関する学習内容である。

　本時では、「見てわかる」特徴と「観てわかる」特徴と分け、前者で化粧、服装、舞台など美術的要素について学習し、後者で役者の立振舞やせりふ回しや「見得」などの演技的要素について学び、「聴き比べてわかる」特徴として、歌舞伎の長唄と三味線の扱い方と、文楽の太夫と三味線の歌と語りの違いを感じ取る学習であった。

【研究協議】

成果として、

○話し合いが活発となり、音楽を苦手としている生徒も協力しながら学習を進めることができるようにグループ活動の時間を十分に取ったり、聴き比べが容易にいくようＩＣＴを活用したりするなど、聴覚だけでなく視覚に訴える効果的な説明や発表の工夫がされていた。

課題として、

▼歌舞伎と文楽の演奏の違いについて、聞いただけでは分かりづらいので音源を工夫したり、何が違うのかポイントを絞ったりことが必要であった。

(2) 学習指導案

# 第２学年７組　音楽科学習指導案

日　時：令和元年１１月１５日（金）第５校時
場　所：音楽室
指導者：教諭　橋本　亜依

１　題材名　日本の伝統芸能に親しみ、声や音楽の特徴を感じ取りながら聴こう
　教材名　歌舞伎「勧進帳」、文楽「勧進帳」
２　題材について（省略）
３　題材の目標
（１）歌舞伎と文楽の特徴を、音楽的特徴と美術的特徴から学び、文化・歴史や他の芸術とのかかわりからよさや美しさを味わう。
（２）長唄と義太夫節の違いを聴き取り、どちらにも三味線と声がともなった音楽であることに気付き、歌舞伎と文楽の共通点を理解する。
４　題材の評価の規準

| （ア）音楽への関心・意欲・態度 | （エ）鑑賞の能力 |
|---|---|
| ①声や楽器の音色、節回し、リズム、速度と曲想のかかわりや、音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 | ①音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解するなどして、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わっている。<br>②声や楽器の音色、節回し、リズム、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解している。 |

５　指導計画及び評価基準

| 時 | 学習活動<br>【共通事項】 | 指導上の留意点 | 評価の観点 | | 評価基準及び<br>【評価方法】 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 関 | 鑑 | |
| 1 | ○歌舞伎のチラシを見せて見てわかる美術的要素に気付く。<br>○白塗りのシーンをＤＶＤで鑑賞する。 | ○ＴＶにカラーのチラシを拡大したものを掲示する。<br>○坂東玉三郎さんの化粧や立振舞を見て、役割があるが「男性」が歌舞伎を担っていることに気付かせる。 | | ○ | （エ）①見てわかる特徴について主体的に挙げ、友達の意見をもとに考え深めたことを、感想を書いている。<br>【観察・ﾜｰｸｼｰﾄ】 |
| 2 | ○歌舞伎「勧進帳」の文学的要素を知り、演技や舞踊などの要素に気付く。<br>【速度、リズム】 | ○ＩＣＴやノートを使って物語の内容を説明することで、観てわかるように指導する。<br>○ＤＶＤを見た後に、動きの特徴や音楽の特徴について、生徒から言葉が出てくるような発問を行うことで、次回につなげる。 | ○ | ○ | （ア）①文学的要素を理解することで、役者の動きや細部へのこだわりに気付き、ﾜｰｸｼｰﾄに記入している。<br>（エ）②役者の動きを見ることで、動きには音楽が伴っていることに気付き、音楽の特徴を伴ってﾜｰｸｼｰﾄに記入している。【観察・ﾜｰｸｼｰﾄ】 |
| 3 | ○「旅の衣はすずかけの…」の部分を歌舞伎の「長唄」と文楽の「義太夫」を比較し、声と三味線の特徴を聴き取る。<br>○歌舞伎も文楽も三味線をともなった伝統芸能であることに気付く。<br>【音色、旋律、リズム】 | ○歌舞伎の比較対象として文楽を用いる。映像を用いることで見聞きした特徴を出させる。<br>○表をグループ活動として用いることで、焦点化して違いに気づくことができるように指導する。 | | ○ | （エ）①「長唄」が「義太夫節」の文化・歴史から派生した音楽をもとに作られた芸能だということ理解し、声と三味線の関りを解釈して記述することができる。<br>②声や楽器の音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す音色の特徴や旋律の動き方を理解しようと感受し、話し合い活動に参加している。【観察・ﾜｰｸｼｰﾄ】 |
| 4 | ○文楽の「人形遣い」について知る。<br>○歌舞伎と文楽など伝統芸能のこれからについて知る。 | ○「文楽」について観てわかる「人形遣い」について理解する。<br>○伝統芸能のこれからについて、「歌舞伎ワンピース」や「ピタゴラスイッチ」を用いて説明する。 | ○ | | （ア）①「人形遣い」の特徴を学び、これからの伝統芸能について、背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち、これからも引き続き継承されていく文化への理解をもとうとしている。【観察・ﾜｰｸｼｰﾄ】 |

6　本時の学習

（1）目標　歌舞伎の「長唄」と文楽の「義太夫節」を比較視聴することで、類似点と相違点について理解し、三味線と声がともなった音楽的要素があることを理解する。

（2）評価

B　長唄と義太夫節の特徴を書き、感想を記入することができる。

A　長唄と義太夫節の特徴を自分の言葉で書き、全体のまとめを用いて感想を記入することができる。

（3）【共通事項】音色、旋律、リズム

（4）展開

| 過程 | 時間 | 学習活動 | 発問・指示 | 指導上の留意点及び評価 |
|---|---|---|---|---|
| 導入 | | 1　前時の復習をする。<br>2　本時のめあてを知る。 | 1　前回は「観てわかる歌舞伎」について学習しましたね。<br>2　今日は「音楽的要素」について学習していきましょう。 | ○ＰＣを用いてスムーズな振り返りを行う。<br>○ワークシートを配付する。 |
| | | めあて：「音楽的要素」について「比較」を用いて理解しよう。 | | |
| 展開 | | 3　歌舞伎と文楽の聴き比べをし､歌舞伎の音楽について理解を深める。<br>（1）個人で考える。<br>（2）グループで意見を交流させる。<br>（3）全体で意見を出し合い、まとめる。<br>4　歌舞伎と文楽のまとめをワーククシートに記入する。 | 3（1）今から、「これやこの…」の部分を鑑賞します。ワークシートにそって記入していきましょう。<br>個人で考える時間を大切にしましょう。<br>（2）グループで確認するために、グループを作りましょう。担当を決めます。<br>・班に拡大ワークシートを配付。<br>・記入できた班から黒板に貼る。<br>（3）意見をまとめ、歌舞伎と文楽の類似点、相違点がありました。<br>4　出てきた意見をもとに、三味線の特徴を確認します。もう一度、音源を聴きましょう。 | ○「これやこの…」の歌詞の意味を説明し、長唄と義太夫節について学ぶことを伝える。<br>○ワークシートに即して、人数、楽器、歌う声質、歌い方の特徴の特徴を聞き取るように指導する。<br>○ＣＤで聴き比べさせる。<br>○グループ活動では、ポイント割り振って記入させる。特徴を絞って出させることで、細かい特徴まで気付けるように声かけをする。<br>○類似点から「三味線音楽」であること、相違点から文楽は「語り物」であり歌舞伎は「歌い物」であることをおさえる。 |
| まとめ | | 5　学習したことをもとに、ワークシートに振り返りを行う。 | 5　相違点、類似点はありましたが、「聴いてわかる要素」として、音楽がありました。歌舞伎以外にも、文楽など日本の伝統芸能はたくさんあります。<br>次回は、多用する伝統芸能について学習していきましょう。 | ○まとめを言い、本時の学びをワークシートに記入させる。<br>○「長唄」と「義太夫節」について授業で学んだことを踏まえて感想を記入させる。<br>○次回への見通しをもたせて、授業を終える。 |

〈Ｂ評価に達しない生徒への手立て〉長唄と義太夫節の特徴をグループの意見をもとに考えさせたり、「音楽的要素」についてのまとめでは、本時に学んだ内容を一緒に確認して記入させたりする。